

若手・中堅技術者がおさえておくべき知識・スキルを学ぶ

# タグチメソッドの基礎理解

【POINT】

- タグチメソッド(品質工学)の代表的な手法「パラメーター設計(ロバスト設計)」を基本から理解する
- なぜパラメーター設計が品質未然防止の決定打なのか？
- パラメーター設計の手順とポイントの徹底解説

開催日時 **2024年 7月 3日(水)** **2025年 1月21日(火)** 大阪会場 オンライン選択可 オンライン 各回とも 10:00~16:00

対象 

- 開発、設計、生産技術、品質保証部門の方
- 品質問題の未然防止について理解したい方
- 若手・中堅エンジニアの方
- タグチメソッドを理解しようとして挫折した経験のある方

講師 **柏木 茂吉氏** 参加料(税込) 法人会員：55,000円/1名 会員外：66,000円/1名  
※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。 ※昼食の提供はございません。(各自でご用意ください。) ※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。 https://www.jma.or.jp/membership/ ※お申込みページ内参加申込規定を確認/同意のうえお申込みください。

株日本能率協会コンサルティング  
 開発・設計マネジメント革新センター  
 センター長 シニア・コンサルタント

ねらい 

- タグチメソッドは活用が難しいと良く言われます。その理由として
- SN比、動特性などの独自の考え方が多く存在し、かつ概念理解が難しい。
- 考え方の本質にたどり着くまでに力尽きてしまう。
- 中途半端な理解のために、適用ができないと思いついでいる。

 といったことが挙げられます。

本セミナーで理解できること 

- 従来の品質管理とタグチメソッドとの違い
- 機能するシステムを設計する
- SN比の考え方
- パラメーター設計の手順

タグチメソッドの**パラメータ設計は、市場不具合問題に対して有効な未然防止策**です。ところが**言葉は知っているけれども、基本的な考え方は中途半端という技術者が多いのが実情**です。そこで重要性が増すパラメーター設計の基礎を分かりやすく理解できるセミナーを企画しました。

コロナ禍を経て技術者のワークスタイルも変わりましたが、その中で明らかになったことは「**品質問題を起こさない会社では、品質で問題を出さないための標準や基準が確立されている**」ことに尽きます。

タグチメソッドは**設計に先立ち、問題を起こしにくい条件を先行して導き出す手法**です。どこでも仕事を進めることが求められる時代において、十分な経験やスキルを持っていない設計者にとって、**タグチメソッドは必須の考え方**と言えるでしょう。

本セミナーでは、1日間という制約の中で、その基本概念を理解し、適用方法についての理解を深めていただくことを主眼に置いています。

数式の成り立ちなどは他に譲り、職場の中での活用方法を考えていただけるよう、わかりやすく丁寧に解説していきます。

演習やQ&Aを交えて双方向で進めてまいります。

参加者の声 

- パラメーター設計の考え方について、とても丁寧に説明していただき参考になった。
- 直交表、SN比の理解が深まり、とても参考になりました。
- 本を読んでも理解できなかったところがすっきりわかりました。
- 細かく、現場に即したご説明を頂きまして、大変よく理解できました。
- システム入出力(システムチャート含む)について演習を交えて行うことで、それぞれの因子と特性の関係が明確になってよかった。
- 演習では他社の考え方を知ることができ、良い経験でした。オンラインでのグループワークはどのようなものか最初不安でしたが楽しめました。

■ プログラム		10:00~16:00	[昼食] 12:00~13:00
<b>1 市場で起きている品質問題と企業の対応</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 品質問題に関して良く見られる状況</li> <li>• 定義からみる品質と品質保証</li> </ul>		
<b>2 品質問題への対処方法を理解する</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 未然防止への3ステップ</li> </ul>		
<b>3 基本的な考え方</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• タグチメソッドとは</li> <li>• 原因と結果 <span>ミニ演習</span></li> <li>• 新たな品質保証の考え方とは</li> <li>• パラメーター設計とは <span>機能性とは</span></li> <li>• 機能するシステムに向けた2つのアプローチ</li> <li>• ノイズ対策の3つの考え方</li> </ul>		
<b>4 パラメーター設計の実際</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2段階設計法のイメージと実際</li> <li>• SN比とは</li> <li>• パラメーター設計の手順</li> <li>【Step1】 テーマの選定</li> <li>【Step2】 システム入出力の検討と機能の検討</li> <li>【Step3】 出力変動の評価方法決定</li> <li>【Step4】 実験計画の立案</li> <li>【Step5】 実験実施と測定</li> <li>【Step6】 結果の解析</li> <li>【Step7】 再現実験の実施</li> <li>【Step8】 まとめ考察</li> </ul>		
<b>5 職場での活用ポイント</b>			

\*プログラム変更される場合があります。あらかじめご了承ください。